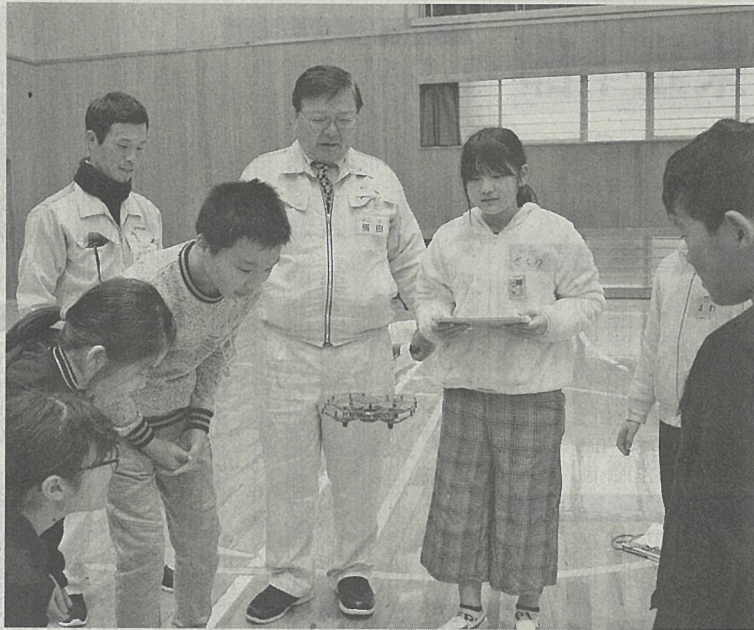


高知

地 域

26



土木建設の最先端学ぶ

伊野南小児童 ドローン操縦に挑戦

いの町八田の町立伊野南小学校で、ドローンを使ったプログラミング体験教室があり、5年生38人が、ドローンの仕組みを学び、データを入力して飛ばすことに挑戦した。指導に当たった土木建設会社の役員は「土木建設業には、3K(危

険、きつい、汚い)のイメージがあるが、最先端の機器を使い、社会を支えていることを知ってもらえた」と話した。

町内を流れる仁淀川支流日下川の洪水を防ぐための地下放水路「日下川新規放水路」の建設工事に参加している土木建設会社「福留開発」(高知市)の社員ら

が、「土木工事について知ってもらおう」と、総合学習の一環として実施した。体験教室は昨年12月17日、同小体育館であった。講師を務めた福留開発の大場将史常務(38)が土木工事の役割について、「人の命と財産、自然環境を守り、人の暮らしを豊かにします」と説明。工事現場ではショベルカーなど大型建設機械とともに、ドローンな

ど最先端の機器も活躍していることを紹介した。

手動だけでなく、事前のプログラムに従って飛行できることなど、ドローンの仕組みを学習。児童らは班ごとに分かれ、タブレット端末に、飛行する方向や高度などを入力して操縦し、高さ約1・4メートルに設置された直径80センチの輪っかを入れておくことに取り組んだ。

参加した上村桜さん(10)は「入力中にデータが消えたり、打ち間違えたりしたけど、ドローンが床から浮き上がったときにはドキドキした。面白かった」と楽しそうだった。

空中に浮いたドローンを興味深く見る児童ら(いの町で)